

令和7年9月8日

6年生保護者の皆様

稲美町立天満東小学校
校長 中 澤 陽 子

令和7年度全国学力・学習状況調査結果について

平素は、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

さて、令和7年4月17日に「全国学力・学習状況調査」が、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されましたので、その結果をお知らせします。

なお、序列化や過度な競争につながるような数値表現でのお知らせではないことをご理解くださるようお願いいたします。

本校児童の学力の定着状況は、県・全国平均と同程度で、大きな差異はありません。

各教科の観点別の成果と課題については、以下のとおりです。この結果を参考にして、各教科の授業改善に取り組みます。

< 国 語 >

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

当該学年までに配当されている漢字の定着や、同音異義語を適切に使う力に課題が見られます。国語の授業で学んだことをほかの授業や生活の中でも積極的に活用したり、家庭学習において反復練習したりするなど、指導の工夫をしていきます。

【話すこと・聞くこと】

各教科において話し合い活動を充実した結果、自分の考えを相手に表現することができています。今後は、自分が知りたい内容に関する言葉を取り上げ、さらに質問しながら理解を深め、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめていけるように、指導や教材の工夫を行っていきます。

【書くこと】

書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の關係に注意しながら文章の構成を考えたりすることができています。今後は、自分の考えが伝わるように、図表などを用いたり目的や意図に応じて書き方を工夫したりするなどの活動を充実していきます。

【読むこと】

段落の構成を意識しながら文章を書く指導を行ってきた成果として、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える力は定着してきています。しかし、事実と感想、意見等との關係を、叙述をもとに理解し文章全体の構成を捉えて要旨を把握することや、目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けることに課題がありました。今後は、目的に応じて必要な情報かどうかを確かめたり、情報と情報がどのような關係にあるのかを考えたりしながら読めるよう、指導を工夫していきます。

< 算 数 >

【数と計算】

計算スキルや計算ドリル、タブレット端末等を活用した反復練習により、基礎的な計算力は身につけています。しかし、分数の通分の意味や数直線を使った分数の大きさの表し方の理解に課題がありました。今後は、工夫して計算することの説明や、図形や線分図の読み取りの場面で、根拠を明らかにして考えたり記述したりする活動を充実させていきます。

【図形】

角の大きさについて単位と測定の意味を理解できています。しかし、全体的に基本図形の概念の定着について課題が見られました。今後は、図形についての観察や構成などの活動を通して、図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目したり、立体図形について理解できたりするよう、図形についての理解を深める学習に取り組んでいきます。

【測定】

はかりの目盛りを正しく読み取る力は身につけています。しかし、読み取った測定値をもとに次に求める値を順序だてて考える力に課題がありました。今後は、分かっている測定値から問題を解決するための必要な数値を求めるなどの活動や、測定結果を考察する活動を行うなど指導の工夫に努めます。

【変化と関係】

伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことはできていました。しかし、「10%増量」の意味を解釈し、「増加後の量」が「増加前の量」の何倍になっているかを表すことに課題がありました。基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えるために、言葉や図、式を関連付けて数量の関係を考察できるよう、指導の工夫に努めていきます。

【データの活用】

棒グラフから項目間の関係を読み取ることはできていましたが、目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がありました。様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて複数のグラフから適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その理由を表現できるように、思考の過程をノートやタブレットに記述するなどの練習を積み重ねていきます。

< 理 科 >

【エネルギー】

回路やコイルの巻き数について基本的な知識は習得できていますが、磁石や直列つなぎなど5年生までの学習内容に課題が見られました。今後、系統的に学習内容を意識し、既習の学習を復習しながら新たな学習を行うように指導の工夫に努めていきます。

【粒子】

実験の方法が適切だったかを判断するなど、実験を行うことについての基本的な知識や考え方が身につけています。しかし、考えを表現することに課題があるため、学習の振り返りで考察を文章でまとめるなどの授業を実践していきます。

【生命】

花のつくりや顕微鏡の使い方などの基本的な知識が十分習得できています。また、結果を明らかにするため、実験の条件を制御した解決方法を考え、実験を行う力が身につ

いていました。今後は、その知識を活かして一層学習内容を深めるために、学習したことから新たな課題を見つけ、その解決方法を表現する活動を増やしていきます。

【地球】

赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果をもとに結論を導いた理由を文章で表現することができるなど、基本的な知識が身についています。それを生きた知識とするため、国語や他教科との横断的な学びの中でこれまで学んできた知識と関連づけて、概念への理解を深めていくように、指導を工夫していきます。

< 生活面 > ※ 顕著な項目を紹介します。

基本的な生活習慣が身についている児童の割合が高く、家庭と連携した食育の取組を通して、「早寝早起き朝ごはん」が定着していることがうかがえます。

規範意識、自己有用感等について、「人が困っているときは、進んで助ける」「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」「困りごとや不安があるときに先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」「人の役にたつ人間になりたい」と回答した児童の割合は高かったことから、児童の規範意識の高さがうかがえます。しかし「友達関係に満足している」「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童の割合が高いにもかかわらず、「自分にはよいところがある」と答えた児童の割合が少し低いことから、自分自身のよさを認め、お互いを尊重できる環境づくりに努めます。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組では、「先生は、授業で間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と答えた児童の割合が高く、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気が付いたりすることができた」と答えた児童の割合も高い傾向が見られます。しかし、家庭学習において、学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）「全く勉強をしない」と答えた児童の割合は、全国平均・県平均を大きく上回っていました。学習内容をより効果的に定着させていくための方法を、家庭と連携を図りながら考えていきます。

ICT 機器を活用した学習状況では「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよくわかる」「ICT 機器を活用することで友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」と多くの児童が答えていました。GIGA スクール構想により導入されたタブレット端末を活用した授業の積み重ねが結果に表れていると考えられます。今後も情報活用能力を育成するため、教育活動全体を通して教育の情報化に取り組み、児童の自主的・主体的な ICT 機器の活用に努めていきます。

本校では、学校教育目標のサブテーマを、「自分を好きになる、ほかの人を好きになる、そして1歩踏み出せ東っ子」としています。今後も学校生活を通じて、また、コミュニティ・スクールの取組や地域活動を通じて、ほかの人と比較するのではなく、今の自分のよさを認めることができ、自らの夢に向かって1歩踏み出すことのできる勇気を持つことのできる東っ子の育成をめざしていきます。